

1 みなさん、こんにちは、私は京都総評の柳生と申します。議案に賛成し補強する立場から発言しま  
2 す。

3 本大会は、コロナ禍に直面し、労働運動としても、この国の在り方にとっても、歴史的に大きな転  
4 換点に、できるかどうかがかかった重要な大会だと、私は思います。

5  
6 コロナ禍によって、私たちの暮らしと仕事が劇的に変化させられました。

7 私は、自交総連のタクシーの仲間の悲痛な叫びが忘れられません。コロナ下で、観光需要が激減し、  
8 「どう乗り切るべきか」と労組役員が経営者と一緒に苦悩に苦悩を重ねておりました。

9 経営者も「何とかしたいが、収入確保が全く見通せない。休業手当を6割以上に上乗せしたくて  
10 も、会社の持ち出し分の原資が無い」。労働者も「休業手当6割分では、月6万円ぐらいにしか  
11 らないので、返せるか分からないが、借金に走らざるを得ない」、この労働者たちが、今の京都の  
12 地域を支えています。

13  
14 そして、無計画な学校休校。

15 私も保育園の登園自粛要請も重なり、「在宅勤務 With こども」になりました。

16 子どもがパソコンのキーボードに乗ったりして、仕事になりません。みなさんも同じような苦労が  
17 あったのでは無いでしょうか。

18  
19 新型コロナ危機によって、新自由主義の酷さを、国民は身をもって感じたと思います。

20 そして、今、国民の意識のなかに、「新型コロナ後には、前の社会に戻らない」という思いが広が  
21 っていることを実感しています。この思いを具体化するためには、思い切った突破口を、明確に呼  
22 びかける必要があると実感しています。3点述べたいと思います。

23  
24 一つ目は、中小企業支援を経済対策の中心に置き、最賃引き上げの環境と合意を一気に拓くこと  
25 です。労働者の暮らしも地域の経済も、両方とも守る緊急対策としての最賃引き上げはコロナ禍だ  
26 からこそ必要です。

27 それをどれだけ多くの皆さんと力を合わせて突破できるかが問われていると思います。この間、中  
28 小企業団体や経営者の皆さんとの懇談を通じて、最賃と中小企業への支援について、共通の課題と  
29 なりつつありますが、一皮むけば、「確かに分けるけど・・・」と、事業主だけの責任にされてい  
30 るがための、本音の悩みが出てきます。

31 だからこそ、雇用を守り、地域を守る苦労をともにする皆さんと、安心して最賃引き上げができる  
32 条件を、政治がつくるのが、今ほど求められているときはありません。

33 この間、京都府会議員との懇談で、「つまり、国の経済政策を変えようと言うものだ」と言われま  
34 した。最賃を引き上げる合意を広げるために、中小企業への思い切った予算規模での支援を、臨時・  
35 特例でなく、経済対策の中心に置かせる政治を求める大共同を、京都で作ろうと取り組みだしてい  
36 ます。新しい政治、政権をも展望することになるに違いないと思います。国民にわかりやすい運動  
37 を創ろうではありませんか。

38  
39 二つ目は、学校の姿を変えることです。20人程度の少人数学級づくりが大きな焦点となってきま  
40 した。少人数学級の実現を、いわゆる教育問題にとどめるのではなく、安倍政権が意図的に押し留め

41 てきた制度と予算の使い方を突破する、新しい社会の姿そのもの、その象徴として実現したいと思  
42 います。「子どもたちに少人数学級をプレゼントしよう」が話題を呼んでいます。京都でも、「コロ  
43 ナの下で、子どもの命を守る学校を」と、早くから少人数学級を求める声が保護者や教職員からあ  
44 がり、京都市向けの緊急署名運動が始まっています。そこに、全国で「少人数学級を求める」ネッ  
45 ト署名が、登場し、さらに、全国署名が始まりました。休校と分散登校を経験した多くの保護者の  
46 皆さんが先頭に立っています。少人数学級実現で、子どもを真ん中にした社会的連帯の政治へ、大  
47 転換する大きな国民的共同を創ろうではありませんか。

48  
49 三つ目は、新型コロナ禍によって、保健所の統廃合や人員削減、自治体機能のリストラ、医療提供  
50 体制削減など、新自由主義政策によって社会基盤が破壊されてきたことが顕在化しました。いのち  
51 とくらしをまもる国・自治体を、国民とともに創る流れが生まれてきています。全国の皆さんから  
52 ご支援をいただいた京都市長選挙の選挙母体「つなぐ京都」のメンバーが、「いまこそ、地元を保  
53 健所を」「地域の病院を守れ」などの声をあげようと、市長選挙候補者であった福山弁護士と活動  
54 を再開しました。

55  
56 「『ほんまに、あの時、考えて投票してたらよかった。』『お金の使い方を考えるって、このことや  
57 った』、うちの周りでみんなそう言うてるで」。

58 いつもお世話になっている料理屋の女将さんの言葉です。

59 命と暮らしがかかっています。3点をあれこれの一つとせず、突破口にした闘いに、全労連が思い  
60 切った旗振りを心から期待し、京都から全力をあげる決意を述べて発言とします。ともに頑張りま  
61 しょう。ありがとうございました。